

灰色文献グリーン化作戦

—文化遺産の記録をすべての人々へ！—

■遺跡の発掘調査に伴って作成される発掘調査報告書は、発行部数が少なく流通範囲が限られていて利用しづらい灰色文献の一つです。遺跡資料リポジトリは、この発掘調査報告書を電子化してインターネット上で流通させる取組みです。大学図書館と報告書の発行主体である自治体文化財担当部署が連携し、プロジェクトを推進しています。

これまでの取組み

■参加府県域とコンテンツの拡大

- ・CSI委託事業として、2008（H.20）年度に中国地方の5県域で開始、3年目の2010（H.22）年度には、20府県域に拡大して推進している。
- ・これまでに、発行されている報告書の1/6にあたる9000冊余りの報告書を電子化し、公開しつつある

■リポジトリサーバソフト

- ・主題リポジトリの多様なメタデータ項目に柔軟に対応できる国産リポジトリソフト（Earmas）を採用
- ・VMWareによる仮想環境を利用することで、導入と管理が容易に

■クラウドシステム

- ・2010（H.22）年度からは、NIIのクラウドシステム上にシステムを構築し運用を開始、さらに参加と導入が容易に

■メタデータ

- ・発掘調査報告書掲載の“報告書抄録”を共通メタデータに使用
- ・奈良文化財研究所から提供を受けたメタデータを使って一括登録も可能

プロジェクトのこれから

■セルフアーカイブの推進

- ・発行主体である自治体文化財担当部署による新規に発行される報告書のセルフアーカイブを進め、発行されると同時に利用が可能な環境づくりを推進

■複線的な参加モデルの検討

- ・大学図書館が中心となって進める現在の参加モデルに加えて、自治体ごとの事情に合わせて柔軟に参加が可能なように、新たな参加モデルを検討

